

教科を越えて事象の本質を追究し、実践に生きる豊かな思考力を育む

— 文理融合の視点で「課題研究 STEAM」を支え教科の学びをつなぐ「協同的探究学習」 —


主催 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

ご案内

先生方におかれましては、ますます御発展のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校をご支援してくださっている方々に、心より感謝申し上げます。本校では、2024 年度に SSH（スーパーサイエンスハイスクール）第 4 期文理融合基礎枠と高大接続重点枠に採択され、教育実践の開発に取り組んでまいりました。2026 年 2 月 6 日には、SSH 研究成果発表会を開催いたします。本校を長年にわたり指導してくださっている東京大学教授の藤村宣之先生のご講演と、授業公開と授業検討会を実施します。多くの方々のご来校を心よりお待ちしております。本校の教育実践に対して、皆様より忌憚のないご意見をお寄せくださいますよう、お願いいたします。

名古屋大学教育学部附属中・高等学校  
校長 柴田 好章

開催日程 2026 年 2 月 6 日（金） 9：10～16：40（受付開始 8：40）				
全体会	SSH 概要について、協同的探究学習について	9：10	～	9：40
	藤村宣之先生（東京大学）の講演Ⅰ（40分）	9：45	～	10：25
第 1 部	公開授業（協同的探究学習）・授業検討会	10：40	～	12：35
	昼食	12：35	～	13：40
	SSH プロジェクトポスター発表会	13：00	～	13：30
	データサイエンス作品展示			
第 2 部	公開授業（協同的探究学習） STEAM <sup>+</sup> ・授業検討会	13：40	～	16：00
全体会	藤村宣之先生（東京大学）の講演Ⅱ（30分）	16：10	～	16：40
会場	名古屋大学教育学部附属中・高等学校（名古屋大学東山キャンパス西地区）			
形態	対面			
対象者	小学校・中学校・高等学校・大学の教員（非常勤講師を含む）、教育委員会関係者、教員志望・研究者志望の大学生および大学院生			
	本校の保護者の皆様のご参加はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。			
会費	無料			
申し込み	2026 年 2 月 2 日（月）までに、本校ホームページの申し込みフォーム			
方法	( <a href="https://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp">https://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp</a> )、または、QR コードを読み取り、お申し込みください。			



## 2025 年度 SSH 第 4 期 2 年次 文理融合基礎枠

### 「サイエンス・エージェンシー育成のためのカリキュラム開発と実践」

#### 目標

自分で考案した事象を絶えず振り返りながら他者との共創を通し実現に向けて探究し続ける力を育成

#### STEAM<sup>+</sup>とは

「Science (科学)」、「Technology (技術)」、「Engineering (工学)」、「Art (芸術)」、「Mathematics (数学)」の頭文字を取った言葉で、文系・理系の枠を超えた科学的思考力や創造力を育成することを目的とした課題研究の教科です。本校では、高校 2 年生から高校 3 年生の 2 年間を通じて、生徒それぞれの興味に基づく領域から個人テーマに取り組みます。

#### 協同的探究学習とは

非定型問題に対する探究と他者との協同（共に学ぶこと）を通じて、生徒がそれぞれの考えやその関係性を分析し、本質を追究して豊かな思考（思考の広がりや深まり）を生み出す授業です。また、他者と話し合うことで、生徒が主体的に授業に関わり、お互いの考えを聞くことで仲間を認め合うことのできる授業です。

#### タイムスケジュール

9 : 10 ~ 9 : 40	全体会	1	SSH 概要について、協同的探究学習について
9 : 45 ~ 10 : 25		2	東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生 講演 I <b>思考の多様性を生かし、本質に向かう学びとは 一教科の学びをつなぐ協同的探究学習一</b>
10 : 40 ~ 11 : 30	第 1 部	1	公開授業（協同的探究学習）
教科	学年	内容	担当
英語	中 1	一般動詞（規則・不規則）の過去形	亀井
技術	中 1	浴用腰掛の製作	鈴木
理科	中 2	雨や雲のでき方	松下
保体	中 2	歌詞の解釈の違いから、「より伝わる表現」を考えよう（領域名：ダンス）	アフリディ
数学	中 3	円周角の定理の活用	松本
社会	中 3	戦争に向う世論	曾我
データサイエンス	高 1	身近な物質に含まれるビタミン C を定量し、そのデータを分析する	都丸・石川
国語	高 1	ポスト真実時代のジャーナリズム	鶴口
アカデミックライティング	高 1	意見交換を通じて個人テーマを深める	大羽
<b>【学校設定科目】データサイエンス（DS）について</b> 取り扱うデータに対して適切な統計分析を選択し、その結果を客観的に解釈し、説明することを身につけます。自分たちが行った実験や実測データの分析に基づき、因果関係を明確にし、根拠を示す考察力を育成することを目指します。			
<b>【総合的な探究の時間】アカデミックライティング（AW）について</b> 高校 2・3 年次の STEAM に取り組むための基礎を身につけた上で、個々の研究テーマを設定します。その際には、文献調査を行い、仮説を立て、研究計画を策定していきます。			
11 : 45 ~ 12 : 35	第 1 部	2	授業検討会

12:35～13:40	昼食	13:00～13:30 SSH プロジェクトポスター発表会 データサイエンス作品展示
13:40～15:10	第2部	1 公開授業（協同的探究学習） 高校2年生 STEAM* 13:40～14:30 研究発表 14:40～15:10 発表の振り返り
15:20～16:00	第2部	2 授業検討会
16:10～16:40 （要検討）	全体会	東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生 講演 II <b>本日の公開授業にみられる学びの深まり</b>
	全体会	閉会

**講演Ⅰ：思考の多様性を生かし、本質に向かう学びとは一教科の学びをつなぐ協同的探究学習—**  
**講演Ⅱ：本日の公開授業にみられる学びの深まり**

国際比較調査（PISA, TIMSS）などの調査を心理学的に分析すると、日本の児童・生徒の「できる学力」（解き方などが一つに定まる定型的な問題を解決する知識・技能）の水準は高いが、「わかる学力」（多様な考えが可能な非定型的な問題に対して思考を構成して表現することや、それらを通じた諸事象の深い概念的理解）に課題があることがみえてくる。

一方で、概念発達や概念変化、協同解決などに関する心理学的研究から、多様な既有知識を活性化可能な非定型課題に対して、一人ひとりの子どもは様々な知識を関連づけて自分なりの思考を構成可能であり、それらの多様な思考を関連づけることで諸事象の本質的理解に向かえることも明らかになってきている。そうした思考や理解の深まりのメカニズムは教科の内容を越えた普遍性を持ち、様々な教科の学びや総合的・探究的な学び、教科統合的な学びの新たな構成原理となりうる。

以上のような教科を越えた学びのメカニズムや、それらを理論的背景とする「協同的探究学習」の授業により学びが深まる具体的なプロセスについて、実証的研究にもとづいて解説を行う（講演Ⅰ）。

そして、本日の公開授業を通じて、どのように生徒たちの学びが深まり、個々の生徒の「わかる学力」や、自己肯定感・他者理解・学習観などの学びに向かう力に高まりがみられるかについて考察する（講演Ⅱ）。

**講師紹介**

**東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生**  
 京都大学大学院教育学研究科において博士（教育学）を取得。名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授などを経て現職。専門は、教育心理学、発達心理学。カーネギーメロン大学（アメリカ合衆国）客員研究員、日本学術会議連携会員などを務めてきている。

著書 『「わかる」はどう深まるか—子どもの思考の発達と協同的探究学習—』  
 （単著、ちとせプレス、2025年）  
 『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—』  
 （藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、ミネルヴァ書房、2018年）  
 『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』  
 （単著、有斐閣、2012年）  
 『協同と探究で「学び」が変わる—個別的・ドリル的学習だけでは育たない力—』  
 （分担執筆、名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、学事出版、2013年）  
 『発達心理学—周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか—（第2版）』  
 （編著、ミネルヴァ書房、2019年）  
 『新しい時代の教育方法（第3版）』（共著、有斐閣、2024年）  
 『国際的に見る教育のイノベーション—日本の学校の未来を俯瞰する—』  
 （共著、勁草書房、2023年）． 他多数